

令和7年度あしたのまち・くらしづくり活動賞 総務大臣賞受賞

廃校校舎を活用して地域づくりと福祉施設

宮城県気仙沼市 特定非営利活動法人 水梨かふえ

当法人は、宮城県気仙沼市の山間にある水梨地区で、高齢者サロン、子どもの居場所づくり・子ども食堂を開催し、障がい児者の通所福祉施設を運営しています。

気仙沼市水梨地区は小学校が廃校になるほどの過疎の地域です。地域のコミュニティの中心であった水梨コミュニティセンターも実質廃止になっています。

2017年に水梨小学校の廃止予定が発表され、地域の方々



【地域全体での取り組み 水梨キッズかふえ①】大型遊具で遊ぶ子どもたち。外での活動もあるが、体育館の中でも遊べるように、空気で膨らませる遊具も設置している



【地域全体での取り組み 水梨キッズかふえ②】昨年12月の子ども食堂の様子。地域の高齢者の方々がつくった郷土料理をみんなで食べる。12月なのでサンタの衣装の子もいる。このイベントを楽しみにしている子がたくさんいる



【地域全体での取り組み 水梨キッズかふえ③】今年の5月のイベントの様子。さかな釣り大会。費用がかからないように、手作りの遊び道具が出てくることも多い。毎月1回の実行委員会の際に、みんなで工夫している

とどうしたらいいか話し合いの中で、「反対するよりも、地域に子どもを集める活動をしよう」ということになりました。

具体的には、「水梨キッズかふえ」という名前で、子どもの居場所づくりと子ども食堂のイベントを開催することになりました。



水梨地域の総意で開催ということで、当法人に加えて、自治会役員や民生児童委員、地区PTAや有志の方々が運営することになりました。市内の高校生ボランティアも手伝ってくれることになりました。第1回目の開催は2018年4月でした。

主な内容は、昔の遊びや地域探検、大型遊具や季節の行事、バザーや野菜の販売、読み聞かせコーナーなどと地域の高齢の方々が作る郷土料理「ばっばのはつと汁」を提供することにしました。メイン行事は毎回、みんなで知恵を出し合います。参加費は無料で参加制限はありません。必要な費用は、地域内の賛同できる世帯から各1000円ずつの協力をいただきました。

「水梨キッズかふえ」は毎月1回、第4日曜日に、廃校となった校舎を会場に実施していて、毎回100人くらいの参加があります。閉校前の児童数が全校で20人ですから、それ以上の人数が集まっていることになります。新型コロナで一時中断はありましたが、すでに50回以上開催して、子どもたちやその親など、たくさんの人たちが楽しみにしているイベントに成長しています。

法人発足の前、2015年から地域の高齢者の方々の親睦の場の活動にもボランティアで取り組んでいました。地域の高齢者サロン「陽だまりかふえ」です。これは、



【高齢者サロン 陽だまりかふえ②】ミニコンサート、地域の人の中で琴の演奏をする方がいらっしゃるのので、地域内の高齢者の方々に披露していただきました



【高齢者サロン 陽だまりかふえ①】お楽しみ会の様子。他の地域の高齢者サロンと交流し、演し物を出し合って盛り上がりました

月に2回程度のペースで開催し、これも参加費無料で毎回約20人の方々が集まり、地域のことを学んだり、カラオケをしたりして過ごします。市内の公民館とコラボしてミニコンサートを開いたこともありました。この会に参加された方々の多くは「水梨キッズかふえ」の子ども食堂を担当していて、次回の献立や持ち寄る野菜の相談をしたりもしています。今では生きがいの一つになっていて、みんなに食べさせる野菜を作ったり、どんな献立が喜ばれるかなど、みんなで工夫して取り組んでいます。

このような経緯があり、「水梨キッズかふえ」は、子どもや高齢者の方々が集まるイベントになったのですが、理事長にはもう一つやりたいことがありました。

長い間気仙沼市立病院の看護師をしていた理事長は障がいのある子を抱えて苦戦している母親の姿をたくさん見てきました。自分にできることはないかと考えた結果、障がい児者の通所福祉施設を作ることになりました。2018年10月には賛同者が集まり、NPO法人水梨かふえを創設、同年12月に理事長の自宅の納屋を改造して、「放課後等デイサービス いっぱ」を開設しました。スタッフに看護師が多いので重度心身障がい児や医療的ケアに対応できる、気仙沼市唯一の障害児施設でした。



【福祉施設 多機能型事業所 いっぱ①】 2019年3月で廃校となった校舎を2021年3月から福祉施設として活用している。一般に開放されている体育館と共に、水梨地区の人たちが集まりやすい建物になっている。現在は地域の防災の拠点化を目指している



【地域と福祉施設合同での取り組み】地域住民と施設職員・利用者などが集まっての避難訓練。地域の子どもたちだけでなく、参加可能な、福祉施設を利用している子どもたちも参加して、防災活動を通じた交流も実現している

ただ、賛同者もいましたが、地域の中には障がい児の行動を不安視する気持ちをもつ方もいました。スタッフ一同、一生懸命取り組んで、次の年の夏に、これまで不安視していた方が、子どもたちへの差し入れにとアイスクリーム持参で訪れてくれたときの喜びは本当に有難いものでした。

その後も「いっぱい」は児童発達支援、居宅訪問型児童発達支援などの新規事業を開設したりして、「多機能型事業所 いっぱ」に成長し、多くの子どもが通う施設になりました。

納屋を改造した施設では手狭になり、旧水梨小学校の貸与を市に申し出たのですが、「公募・公売が原則」という理由で最初は取り付く島もありませんでした。しかし、地域の方々が「旧水梨小学校に是非いっぱい」という要望書を地区民の声として届けていただいたことで、議会ではいっぱへ貸与することが決議され、正式に契約を交わして、旧水梨小学校が多機能型事業所いっぱとなりました。

いっぱの利用者は地域のバス停の美化活動をしたり、自分たちが育てた花を地域に飾ったりしていますし、地域の方々は子どもたちに馴染みを教えに来たりして交流が深まっています。

旧水梨小学校の体育館は一般の避難所に



【福祉施設 多機能型事業所 いっぱ②】 水梨キッズかふえといっぱは水梨の自然に触れる機会も大切にしている。いっぱが開催する星をみる会は地域だけでなく市内全域から子どもたちが参加する。夏休み中に開催の場合は、ミニ花火大会も同時に開催して子どもたちの夏休みの思い出の一助になっている

指定されていますし、校舎は福祉避難所に指定されています。校庭はドクターヘリの発着所です。現在は地域の方々と福祉施設が共同で大災害に備える活動の計画を立てています。

廃校になった校舎は、現在は多くの子どもや高齢の方が集まったり、障がいのある人たちが通う施設になっているだけでなく、地域の方々・障がいのある人の災害時の避難所にもなっています。

(特定非営利活動法人水梨かふえ

総務部長 熊谷俊二)